

英語圏の遊び歌に見られる融合と拡張

— On a cold and frosty morning を手がかりにして —

中澤紀子

0. はじめに

本稿では、英語圏の遊び歌の一つとしてよく知られる Here we go round the mulberry bush で始まる輪遊び歌と Here we go gathering nuts in May で始まる‘はないちもんめ’型の間答歌を中心として、歌の詩句の融合と拡張について考察する。

1. シンギング・ゲーム (singing game) におけるナーサリー・ライムとバラッド

現在「ナーサリー・ライム (nursery rhymes)」あるいは、「マザー・グースのうた (Mother Goose)」と総称されている詩または歌の中に「バラッド (ballads)」と呼ばれる形式のものがある。ただし、両者は、単純な包含関係にあるのではなく、「ナーサリー・ライム」の範疇に入らない「バラッド」も数多く存在する。

バラッド (ballad)¹とは、茂木 (1996: 16) の定義に従えば、4行で

¹ バラッド (ballad) の語源は、後期ラテン語で「踊る」を意味する動詞 *ballāre* + *-ada* *-ADE* であるとされる。本稿では、バラッド (ballad) は、音楽の形式のひとつである、いわゆる、バラード (ballade) 「譚詩曲」とは別のものと考ええる。

1 スタンザが形成され、物語性を強くもち、作者や成立年代不明で口承によって伝えられてきた伝統歌である。

また、茂木 (1996: 17) の解説によると、バラッドは、15 世紀頃までは、キャロル (carole) と呼ばれたリング・ダンスに伴って歌われていたものらしい。また、人々が手をつなぎあい、円を描きながら踊った、このキャロルというリング・ダンスには、音頭取りをするチーフ・シンガーがいて、そのチーフ・シンガーが四行詩であるバラッドの 1 行目と 3 行目を歌い、ダンサーたちが 2 行目と 4 行目のリフレイン²を歌っていたという。構成上、このように、4 行から成る各スタンザの 2 行目と 4 行目にリフレインをもっている歌は、古い時代 (中世以前) に成立したと考えられ、「オールド・バラッド」と呼ばれるそうだ。

本稿で考察する 2 つの歌は、元々、子供たちが歌いながら行なう遊び、即ち、シンギング・ゲーム (singing game) に用いられる歌である。そして、4 行から成る各スタンザの 2 行目と 4 行目にリフレインをもっていることから、「ナーサリー・ライム」あるいは、「マザー・グースのうた」と総称される歌の中で「オールド・バラッド」の形式を持つものと考えてよいであろう。

2. Here we go round the mulberry bush と輪遊び歌

2. 1. Here we go round the mulberry bush で始まる輪遊び歌

Here we go round the mulberry bush という詩句で始まる輪遊び歌の典型的なものは、(1) に示すように、第 1 スタンザでは、歌に合わせて子供たちが手をつないで輪になり、歩いたりスキップしたりして廻り、第 2 スタンザ以降は、歌詞に合わせて子供たちがいろいろな動作をまねて遊ぶというような、2 部構成になっている。

² リフレイン (refrain) とは、詩や歌において、各節ごとに繰り返し現れる「折り返し句」「反復句」のことで、特に、各スタンザ、各節の終わりに現れることが多い。

- (1) Here we go round the mulberry bush, 廻ろ 廻ろ 桑の木
 The mulberry bush, the mulberry bush, 桑の木 桑の木
 Here we go round the mulberry bush, 廻ろ 廻ろ 桑の木
 On a cold and frosty morning. さむーい霜の朝
 来住(1988;17-18) 藤野(1989:127) (筆者試訳)

This is the way we wash our clothes,
 Wash our clothes, wash our clothes:
 This is the way we wash our clothes,
 On a cold and frosty morning.

This is the way we clean our rooms,
 Clean our rooms, clean our rooms:
 This is the way we clean our rooms,
 On a cold and frosty morning.

来住(1988;17-18)

(1) の歌は、現在は「マザー・グースのうた」あるいは「ナーサリー・ライム」の中の輪遊び歌として、英語圏のみならず日本でもよく知られているが、ナーサリー・ライムの集成の決定版とも言うべき Opie 夫妻編の *The Oxford Dictionary of Nursery Rhymes* (1951;1997) [以下、Opie (1951;1997) と略記する] には収録されていない。

一方、米国におけるナーサリー・ライムの完全収録版とも言うべき Baring-Gould 夫妻の *The Annotated Mother Goose* (1962) [以下、Baring-Gould (1962) と略記する] には、(2) の形で収録されている。

- (2) Here we go round the bramble bush, 廻ろ 廻ろ 茨の木
 The bramble bush, the bramble bush: 茨の木 茨の木
 Here we go round the bramble bush, 廻ろ 廻ろ 茨の木

On a cold frosty morning!

さむい霜の朝

(筆者試訳)

This is the way we wash our clothes,

Wash our clothes, wash our clothes:

This is the way we wash our clothes,

On a cold frosty morning!

This is the way we clean our rooms,

Clean our rooms, clean our rooms:

This is the way we clean our rooms,

On a cold frosty morning!

Baring-Gould (1962: 253)

ここでは、(1)の歌の the mulberry bush (桑の木)の部分が、the bramble bush (茨の木)となっている。この異同について、Baring-Gould (1962: 251)の註には、次のように書かれている。

In later years, this has come to be known as:

Here we go round the mulberry bush....

(後年になって、この歌は *Here we go round the mulberry bush* で始まる歌として知られるようになった。)

この解説に従えば、the bramble bush (茨の木)のバージョンの方が古い形で、the mulberry bush (桑の木)のバージョンは、比較的新しい形であることになる。

また、僅かな差異であるが、(1)のリフレインの部分 On a cold and frosty morning は、(2)では、and のない形 On a cold frosty morning! となっている。

さらに、この歌の現代版では、リフレインの部分が（１）に見られるように On a cold and frosty morning となっているものと、（３）に見られるように So early in the morning になっているものが並存している。

- (3) Here we go 'round the mulberry bush,
The mulberry bush, the mulberry bush
Here we go 'round the mulberry bush,
So early in the morning

This is the way we wash our face
Wash our face, wash our face
This is the way we wash our face
So early in the morning

This is the way we comb our hair
Comb our hair, comb our hair
This is the way we comb our hair
So early in the morning

This is the way we brush our teeth
Brush our teeth, brush our teeth
This is the way we brush our teeth
So early in the morning

This is the way we put on our clothes
Put on our clothes, put on our clothes
This is the way we put on our clothes

So early in the morning...

Songs for Teaching (2002-2008)³

筆者が米国カリフォルニア州滞在中(1991-1992)⁴に実際に聞いたのは、*So early in the morning* のバージョンであった。また、発音を聞いただけでは判別しにくいのが、*go round* か *go 'round* かの区別に関しても、両方が並存しているようだ。

2. 2. *This is the way* で始まる詩句の分類と拡張

— *On the cold and frosty morning/ So early in the morning* を基点として

次に、前節の(1)(2)(3)に代表される輪遊び歌を、第2スタンザ以降の動作の種類に注目し、分類してみる。

まず1つめは、(1)(2)に共通して見られるように、「洗濯をする」「部屋を掃除する」などの家事に関する動作である。

2つめは、(3)に見られるように、「顔を洗う」「髪を梳かす」「歯を磨く」「服を着る」などの朝の身支度に関する動作である。この類に入る動作としては、「手を洗う (*wash our hands*)」の他、「学校へ行く (*go to school*)」というものもあり、さらに、朝の動作からは外れるが、「学校から帰ってくる (*come out of school*)」というものまでである。

³ インターネットの検索による。http://www.songsforteaching.com
Cf. *Songs for Teaching Using Music to Promote Learning*
6632 Telegraph Rd. #242, Bloomfield Hills, MI 48301

⁴ また、同滞在期間に、米国人中年男性から聞いた話では、(3)の第1スタンザの歌 *Here we go 'round the mulberry bush...* と次の(i)の歌が、記憶の中で合体しているらしかった。

(i) *This is the way the ladies ride,
Nimble, nimble, nimble, nimble;
This is the way the gentlemen ride,
A gallop a trot, a gallop a trot;...*
Opie(1951: 257-8; 1997: 302-3)

3つめは、子供に運動系の動作をさせるのが主眼となったもので、次のような例がある。

- (4) Here we go round the mulberry bush,
The mulberry bush, the mulberry bush,
Here we go round the mulberry bush,
On a cold and frosty morning.

This is the way we stretch our arms
Stretch our arms, stretch our arms
This is the way we stretch our arms
On a cold and frosty morning.

This is the way we catch a ball
Catch a ball, catch a ball
This is the way we catch a ball
On a cold and frosty morning.

This is the way we kick a ball
Kick a ball, kick a ball
This is the way we kick a ball
On a cold and frosty morning.

This is the way we throw a ball
Throw a ball, throw a ball
This is the way we throw a ball
On a cold and frosty morning.

This is the way we bounce a ball

Throw a ball, bounce a ball
 This is the way we bounce a ball
 On a cold and frosty morning.

CBeebies BBC⁵

以上、This is the way で始まる動作を①家事、②身支度、③運動、の3つに分類したが、ここから歌の‘拡張’の方向の一部が見えてくる。

つまり、リフレインに見られる On a cold and frosty morning / So early in the morning を発想の基点として、「寒い朝」あるいは「朝早く」に行なう動作というイメージから、「朝の家事」「朝の身支度」のイメージが喚起され、それぞれに関わる動作が登場する。‘拡張’の、次のステップとしては、いろいろな動作のまねをする面白さ、あるいは、幼い子供にいろいろな動作をさせるという教育的な面に焦点が移り、必ずしも「寒い朝」あるいは「朝早く」に関連した動作ではなくなっていく。

さて、次に「朝の家事」の類からのもうひとつの‘拡張’の方向について、2.3節で見ていくことにする。

2.3. 家事 (household chores) から「一週間の歌」への拡張

— So early in the morning を基点として

2.1節の(1)(2)に見られるような This is the way に続けて単に「朝の家事」の動作を羅列する歌から、「毎朝の家事」の種類を月火水木金土日に振り分けることによって「一週間の歌」へと拡張した例を次に示す。

(5) Here we go 'round the mulberry bush,
 The mulberry bush, the mulberry bush,

⁵ インターネットの検索による。http://www.bbc.co.uk
 (4) は、英国 BBC の番組 *CBeebies* の中で登場する歌。

Here we go 'round the mulberry bush,
So early in the morning.

These are the chores we'll do this week,
Do this week, do this week,
These are the chores we'll do this week,
So early **every** morning.

This is the way we wash our clothes,
Wash our clothes, wash our clothes:
This is the way we wash our clothes,
So early **Monday** morning.

This is the way we iron our clothes,
Iron our clothes, iron our clothes,
This is the way we iron our clothes,
So early **Tuesday** morning.

This is the way we scrub the floor,
Scrub the floor, scrub the floor,
This is the way we scrub the floor,
So early **Wednesday** morning.

This is the way we mend our clothes,
Mend our clothes, mend our clothes,
This is the way we mend our clothes,
So early **Thursday** morning.

This is the way we sweep the floor,

これが今週の仕事(家事)
今週の 今週の
これが今週の仕事(家事)
毎日朝早く

こんなふうにお洗濯
お洗濯 お洗濯
こんなふうにお洗濯
月曜の朝早く

こんなふうにアイロンかけ
アイロンかけ アイロンかけ
こんなふうにアイロンかけ
火曜の朝早く

こんなふうに床みがき
ごしごし ごしごし
こんなふうに床みがき
水曜の朝早く

こんなふうに繕い物
ちくちく ちくちく
こんなふうに繕い物
木曜の朝早く

こんなふうに床を掃く

Sweep the floor, sweep the floor,
 This is the way we sweep the floor,
 So early **Friday** morning.

サーササッ サーササッ
 こんなふうに床を掃く
 金曜の朝早く

This is the way we bake our bread,
 Bake our bread, bake our bread,
 This is the way we bake our bread,
 So early **Saturday** morning.

こんなふうにパンを焼く
 こんがり こんがり
 こんなふうにパンを焼く
 土曜の朝早く

This is the way we get dressed up,
 Get dressed up, get dressed up,
 This is the way we get dressed up,
 So early **Sunday** morning.

こんなふうに晴れ着て
 晴れの日 晴れの日
 こんなふうに晴れ着て
 日曜の朝早く

(筆者試訳)

Here we go 'round the mulberry bush,
 The mulberry bush, the mulberry bush,
 Here we go 'round the mulberry bush,
 So early in the morning.

Keith Mander (2003-2008) *BUSSONGS.COM*⁶

(ただし、太字は筆者による)

⁶ インターネットの検索による。 Keith Mander (2003-2008) *BUSSONGS.COM* の中の 'Here We Go Round The Mulberry Bush' の項目には、Song Lyrics & Words の欄に、もっと短いバージョンが紹介され、Alternative Lyrics & Words の欄に、Another longer version として(5)に示した長いバージョンが掲載されている。また、同じ Alternative Lyrics & Words の欄に次のような紹介がある。

Another version begins with the following verse:
 This is the way we wash our hands,
 Wash our hands.
 This is the way we wash our hands,
 So early in the morning.

(5) は長いバージョンであるが、もっと短い標準的なバージョンでは、(5) の詩句のうち、第 1 スタンザの直後に、第 3 から第 8 スタンザの月火水木金土の家事の動作が続き、第 9 スタンザの日曜の動作として *get dressed up* の代わりに *go to church* が入り、そこで歌が終わる。

3. Here we go gathering nuts in May と ‘はないちもんめ’ 型の間答歌

3.1 Who will you have for your nuts and may で始まる ‘はないちもんめ’ 型の間答歌

先に 2.1 節で見た Baring-Gould (1962) の (2) の歌に付けられた註には、次のような、類似の歌への言及がある。

There is also the version of a similar dance game which begins:

*Who will you have for your nuts and may,
Nuts and may, nuts and may;
Who will you have for your nuts and may,
On a cold and frosty morning?*

This is followed by the selection of a child:

I'll have little [name of child] for my nuts and may. . . .

つまり、Here we go 'round the mulberry bush で始まるスタンザを経ないで、This is the way で始まる歌があるということである。

この記事は、Here we go 'round the mulberry bush で始まる歌と This is the way で始まる歌が元は別々に存在し、それらが、So early in the morning という共通のフレーズまたはリフレインをきっかけにして、一つの歌へと合体・融合した可能性を示唆していて興味深い。

And then:

*And who will you send to fetch him away,
Fetch him away, fetch him away;
And who will you send to fetch him away,
On a cold and frosty morning.*

I'll send [name of child] to fetch him away. . . .

Baring-Gould (1962:251)

この歌は、2つの組（例えばAとBとする）に分かれて行なう問答歌であり、第1スタンザでA組が「誰が欲しいか」を問い、B組は、「～ちゃんが欲しい」と、A組の中から選んだ子供の名前を答え、次に第3スタンザで再びA組が「その子を迎えに誰をよこすか」を問い、B組が「その子を迎えに～を遣る」とB組の中から選んだ子供の名前を答える。

従って、この歌は、日本のわらべうたの中では、同じ形式の問答歌である「はないちもんめ」に相当する遊び歌であると言える。

次節では、この歌と Here we go gathering nuts in May で始まる詩句との合体・融合について考察する。

3. 2. Who will you have for your nuts and may と Here we go gathering nuts in May との融合

— On the cold and frosty morning を鍵として

3.1節で挙げた歌は、現在では、Here we go gathering nuts in May という詩句と合体して、次のような歌詞の‘はないちもんめ’型の問答歌として知られている。

(6) Here we go gathering nuts in May, Nuts in May, nuts in May, Here we go gathering nuts in May, On a cold and frosty morning.	五月の木の实を拾いに行こうよ 五月の木の实を 五月の木の实を 五月の木の实を拾いに行こうよ さむーい霜の朝
--	--

Who will you have for nuts in May, Nuts in May, nuts in May? Who will you have for nuts in May, On a cold and frosty morning.	五月の木の实に誰が欲しい 五月の木の实に 五月の木の实に 五月の木の实に誰が欲しい さむーい霜の朝
--	--

We'll have _____ for nuts in May, Nuts in May, nuts in May, We'll have _____ for nuts in May, On a cold and frosty morning.	五月の木の实に _____ が欲しい 五月の木の实に 五月の木の实に 五月の木の实に _____ が欲しい さむーい霜の朝
--	--

Who will you send to fetch her away, Fetch her away, fetch her away, Who will you send to fetch her away, On a cold and frosty morning.	その子を取りに誰をよこす 誰をよこす 誰をよこす その子を取りに誰をよこす さむーい霜の朝
--	--

We'll send _____ to fetch her away, Fetch her away, fetch her away, We'll send _____ to fetch her away, On a cold and frosty morning.	その子を取りに _____ をやろう _____ をやろう _____ をやろう その子を取りに _____ をやろう さむーい霜の朝
--	--

藤野 (1989: 147)

(筆者試訳)

この歌の中で繰り返される‘nuts in May’とは、藤野(1989: 149)に引用されている *Brewer's Dictionary of Phrase and Fable* (1975) の説明によれば、元々は‘knots of may [sic]’であり、‘Here we go gathering *knots* of may

[sic] とは、‘the old custom of gathering knots of flowers on May-Day i.e. “to go a-maying [sic]” ’つまり、五月祭の日に花を摘みに行く風習を指しているという。

これに関して、筆者の私見では、‘knots’には、「(紐、綱、リボンなどの) 結び目」の意味から、「(男女の) 縁、絆」の意味があり、五月祭 (May-Day) には、Maypole と呼ばれる花やリボンで飾った柱の周りを、その柱からつながったリボンを手を踊りながら廻ることから、‘Here we go gathering knots of May’ とは、五月祭の日に男女が恋や結婚の相手を求めて、即ち、縁結びを願って集うことを意味するのではないかと考える。⁷

次に注目すべきは、Baring-Gould (1962) が註で言及している Who will you have for your nuts and may で始まる ‘はないちもんめ’ 型の間答歌と Here we go gathering nuts in May で始まる詩句とがどのようにして融合したかということである。

この融合の鍵となるのは、On a cold and frosty morning というリフレインに使われる詩句であると考えられる。両者に含まれるこの詩句が、両者を合体・融合させる接着剤の役割を果たしたのではないだろうか。

第4節では、このような詩句の融合と拡張の問題を、第2節で論じた詩句の拡張の問題と合わせて議論してみたい。

⁷ W.S. ベアリングールド、C. ベアリングールド [解説と注] 石川澄子 [訳] (2003) の訳者注には、これと似た意味を示唆する次のような記述がある。

昔、我が国の‘嬉歌 (かがい)’と似たような風習があり、五月一日に雪が消えた野山に出て花を摘み、想う人に花束を捧げた。花を摘んで歌い踊って祝うことを“maying”という。

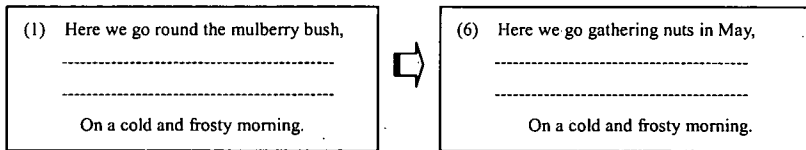
W.S. ベアリングールド、C. ベアリングールド [解説と注] 石川澄子 [訳] (2003: 534)

4. Here we go round the mulberry bush と Here we go gathering nuts in May における詩句の融合と拡張

3.2 節で論じた Here we go gathering nuts in May と On a cold and frosty morning という詩句の組み合わせは、さらに遡って考えると、2 節で論じた Here we go round the mulberry bush と On a cold and frosty morning という詩句の組み合わせを基にして拡張したものではないだろうか。

この推論を図式化すると、概ね次のようになる。

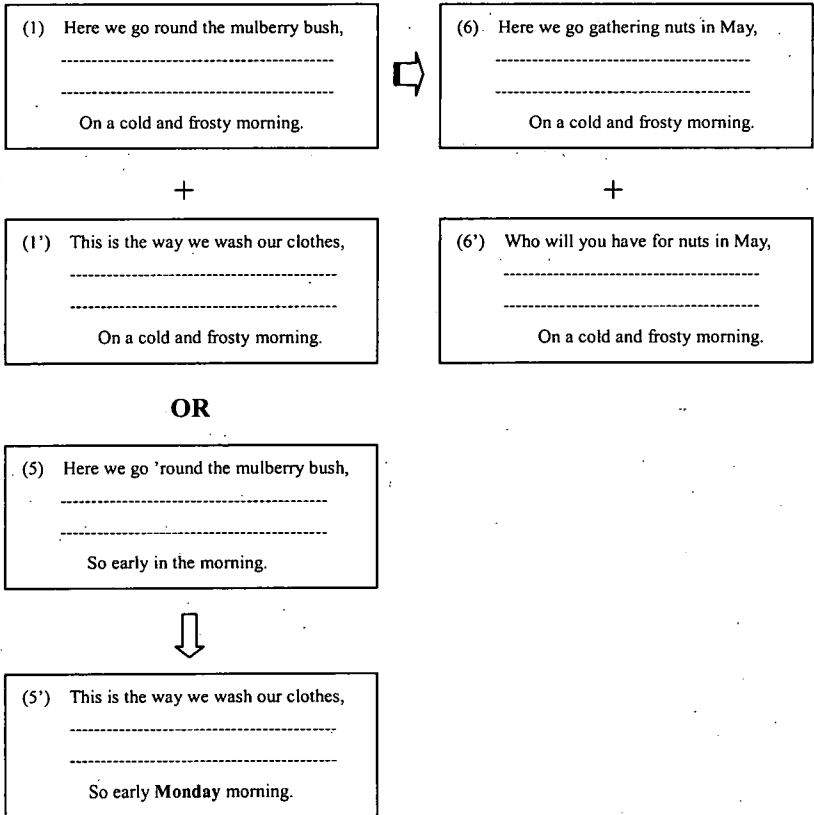
(図 1)



(図 1) の矢印は (1) の mulberry bush 型の歌から (6) の nuts in May 型の歌への拡張を表わす。その拡張の鍵となっているのは、On a cold and frosty morning というリフレインの詩句である。

また、この図式に、矢印の左辺には、2.2 節で論じた This is the way で始まる詩句との融合と「一週間の歌」への拡張を加え、矢印の右辺には、Who will you have for nuts in May で始まる‘はないちもんめ’型の問答歌との融合を加えると (図 2) のようになる。

(図 2)



(図 2) における + の記号は、それぞれ、(1) の Here we go round the mulberry bush 型の歌と This is the way で始まる日常の動作のまね歌との融合、(6) の Here we go gathering nuts in May 型の歌と Who will you have for nuts in May で始まる 'はないちもんめ' 型の問答歌との融合を表わす。この融合の際の鍵となっているのは、この場合もまた、On a cold and frosty morning というリフレインの詩句である。

さらに、(1) の Here we go round the mulberry bush 型の歌は、そのリ

フレインに関して、On a cold and frosty morning という詩句と (5) に見られるような So early in the morning という詩句との交替が見られる。この交替形が現れた動機は、This is the way で始まる歌に合わせて日常の動作をまねる際に、主に「家事」や「朝の身支度」の動作が選ばれ、それが、必ずしも「寒い霜の朝に (On a cold and frosty morning)」でなくて、単に「朝早く (So early in the morning)」でもよいと感じられたたからかもしれない。今述べたような、交替形が現れる動機付けに関しては、推測の域を出ない。しかし、実際の資料から言えることは、(5') に見られるような「一週間の歌」への拡張が起こるのは、リフレインが So early in the morning という交替形の場合のみである。この現象については、詩句のリズムを崩さずに Monday morning, Tuesday morning,... と曜日を歌い込めるのは、So early in the morning の方だけであるから、という理由付けができる。

以上の仮説が正しい方向を示しているとすれば、(図1)(図2)に示した(6)や(6')のような nuts in May 型の歌においては、So early in the morning という交替形は、上で述べたような動機付けがないために、現れにくい、あるいは、現れないと推測される。そして実際に、手元にある文献資料とインターネットによる 5 種類のバージョン⁸を調べたところ、nuts in May 型の歌では、So early in the morning という交替形

⁸ 参照した website は、次の通り (年代順)。

www.landofnurseryrhymes.co.uk (2003-2006)

The Land of Nursery Rhymes

http://www.landofnurseryrhymes.co.uk/html_pages/Here%20We%20Go%20Gathering%20Nuts%20

[grandmas-nursery-rhymes.com](http://www.grandmas-nursery-rhymes.com) (2006-2008)

<http://www.grandmas-nursery-rhymes.com/nursery-rhymes/here-we-go-gathering-nuts-in-may>

www.lanternree.com (2007)

Nursery Rhymes and Songs for Children

<http://www.lanternree.com/nurseryrhymes/HereWeGoGatheringNutsInMay>

Sweet Rhymes – Collection Of Poems And Rhymes (2008)

<http://www.sweethymes.com/nursery-rhymes/here-we-go-gathering-nuts-in-may/>

donkylemore (2008)

<http://www.booksie.com/poetry/poetry/donkylemore/here-we-go-gathering-nuts-in-may>

は、現れていない。

4. まとめと次の課題

本稿では、Here we go round the mulberry bush で始まる輪遊び歌と Here we go gathering nuts in May で始まる ‘はないちもんめ’ 型の間答歌を中心にして、遊び歌の詩句の融合と拡張について考察した。その融合と拡張の際に重要な役目を果たしたのが、リフレインに現れる On a cold and frosty morning という詩句であった。

また、Here we go gathering nuts in May で始まる ‘はないちもんめ’ 型の間答歌については、3.2 節で、その詩句の原型とされる ‘Here we go gathering knots of May’ とは、五月祭の日に男女が恋や結婚の相手を求めて、即ち、縁結びを願って集うことを意味するのではないかという推測を述べた。

そこで、次の課題は、1889 年スコットランド生まれの Willa Muir が、自らの少女時代のバラッド体験を記録・研究した貴重な本 Willa Muir (1965) *Living with Ballads* の中で言及している ‘Father, Mother, may I go?’ で始まる輪遊び型の間答歌と、本稿で扱った Here we go gathering nuts in May で始まる ‘はないちもんめ’ 型の間答歌との関係を調べることである。

前者で注目すべきは、‘Father, Mother, may I go?’ で始まる間答歌のリフレインに現れる詩句が、本稿で融合と拡張において重要な役割を果たした On a cold and frosty morning と酷似する On a cold, cold frosty morning であり、また、この輪遊び歌が、将来の恋人選びを模したシンギング・ゲームであるという点である。

参考文献 ※出版年代順

- Opie, Iona and Peter (1951) *The Oxford Dictionary of Nursery Rhymes*, 1st ed., Oxford University Press.
- Opie, Iona and Peter (1955) *The Oxford Nursery Rhyme Book*, Oxford University Press.
- Baring-Gould, William S. and Ceil Baring-Gould (1962) *The Annotated Mother Goose*, Bramhall House, New York.
- Willa Muir (1965) *Living with Ballads*, New York; Oxford University Press.
- 来住正三 (1988) 『マザー・グースをしてみてください?』南雲堂
- 藤野紀男 (1989) 『保存版 名作マザーグース 70 選』三友社出版
- 茂木健 (1996) 『バラッドの世界／ブリティッシュ・トラッドの系譜 (British Traditional Music)』春秋社
- Opie, Iona and Peter (1997) *The Oxford Dictionary of Nursery Rhymes*, 2nd ed., Oxford University Press.
- W.S. ベアリングールド、C. ベアリングールド[解説と注]石川澄子[訳](2003) 『完訳 マザー・グース』鳥影社